

核兵器
なくそう

市民による平和の取組み



戦後73年の夏、国連の核兵器禁止条約採択、北朝鮮の非核化に向けた取り組みの開始という歴史的な前進の情勢の中で、碧南市内でも、多彩な平和を求める取り組みが行われています。

8月5日(日)には、碧南高浜網の目平和行進が行われました。連日、40℃に迫る猛暑が続くなか、碧南市役所で集会后、名鉄三河高浜駅にあるいきいき広場まで行進しました。碧南市からは、生田和重経営企画課長が「暑い中、毎年、平和と核兵器をなくすために行われていることに敬意を表します」と、激励のあいさつをされました。

高浜市からは、人事グループリーダーの杉浦さんから「戦後73年たつて記憶が薄らぐ中、毎年、活動は平和と核兵器廃絶のために貴重。市としても平和と教育を進める」とのあいさつと冷茶の接待をしていただきました。

参加者は汗みどろで「暑しかったけど、歩きとおせてよかった」と口々に健闘をたたえあいました。

猛暑の中、平和行進

戦後73年の夏、国連の核兵器禁止条約採択、北朝鮮の非核化に向けた取り組みの開始という歴史的な前進の情勢の中で、碧南市内でも、多彩な平和を求める取り組みが行われています。

～平成30年度「平和への誓い」～ 2018. 8.6 平和記念式典にて

人間は、美しいものをつくることができます。
人々を助け、笑顔にすることができます。
しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。
昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。
原子爆弾の投下によって、御焼、たくさんの命が奪われました。
「助けて。」と、泣き叫びながら倒れている子ども。
「うちの息子はどこ。」と、捜し続けるお父さんやお母さん。
「骨をもうください。」と頼む人は、皮膚が垂れ下がり、腕の肉が無い姿でした。
広島は、赤と黒だけの世界になったのです。
73年経ち、私たちに残されたのは、
血がべつとついた少女のワンピース、焼けた壁に記された伝言。
そして今もなお、遺骨の無いお墓の前で静かに手を合わせる人。
広島に残る遺品に思いを寄せ、今でも苦しみ続ける人々の話を耳を傾け、
今、私たちは、強く平和を願います。
平和とは、自然に笑顔になれること。
平和とは、人も自分も幸せであること。
平和とは、夢や希望をもてる未来があること。
苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた広島の人々。
その平和への思いをつないでいく私たち。
平和をつくることは、難しいことではありません。
私たちは無力ではないのです。
平和への思いを折り鶴に込めて、世界の人々へ届けます。
73年前の事実を、被害者の思いを、
私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります。
こども代表 広島市立牛田小学校 6年 新開 美織

広島市立五日市東小学校 6年 米廣 優陽

夏の朗読会十四

小さな祈り

8月4日には碧南市芸術文化ホール シアターサウスで、夏の朗読村主催の「小さな祈り」朗読会が開かれました。

「戦後73年 忘れてはいけない日がある 伝えなければいけないことがある・・・親が子が引き裂かれたあの日・・・いま 声に出して伝えたい」と7人が9作を朗読されました。森永アサキさんは、自作の「南瓜の盛り」を静かに朗読。東端の飛行場などすぐ身近にあった戦争と親子の姿を伝えました。熊谷祥子さんのヴァイオリンの物悲しい切ない調べも伴いながら、静かに、じつくりと聴衆の心にしみました。

こういう「反戦平和」は、脳裏に描かれる映像とともに深く心にしみみます。

主催者のかたは、9月26日にも「原爆。ピアノ」による朗読コンサートを計画しています。

平和のピアノ

9月26日(水) 午後1時半

入場料 800円
お話し 朗読、ピアノ、バイオリン、歌

遺族会が8月15日

まで原爆パネル展

8月3日から8月15日まで、文化会館1階で、碧南市遺族連合会による「ヒロシマ・ナガサキ 原爆パネル展 戦争と平和資料展」が開かれています。

中1少年の血まみれ学生服も

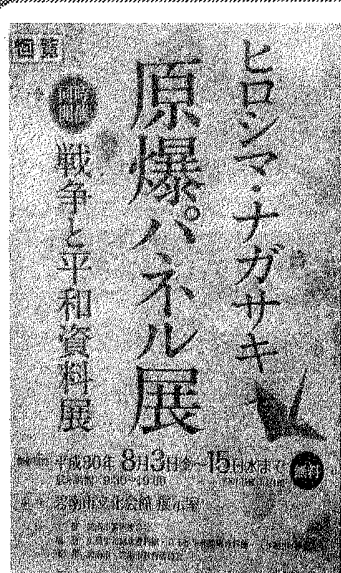
資料の中には、八王子平和・原爆資料館が保管する、豊嶋長生くん(被爆当時14歳 中学1年生)の血まみれの学生服が展示されています。「長生くんのこの学生服が私たちに語りかける無言の『訴え』に耳を澄ませてください。(中略) 私たちが彼らのことを忘れたら、彼らはもう一度死んでしまうことになります。(パンフから)」と、迫ってきます。ぜひ、お出かけください。

高齢での搬送、苦勞を吐露

各地からの資料を自力で搬送した主催者代表の生田さんは「会員も高齢なので、搬送など大変です」と苦勞を吐露されました。

平和首長として市が継続を

ねがた碧南市長は、平和首長会議に加盟しています。市がパネル展など継承していただきたいです。広島市の事務局は、原爆種苗の配布や、資料の提供を行い各地の首長に普及を呼びかけています。



原水爆禁止世界大会とは

1945年8月6日、9日ー広島・長崎に原爆が投下され、2つの街が一瞬にして、「地獄」に突き落とされました。広島、長崎ではその年のうちに約21万人もの尊い命が奪われました。しかし、原爆を使用したアメリカは、広島・長崎への原爆被害が世界に伝わることを恐れ、厳しい報道管制をおこない、実態は日本国民にも、アメリカ国民をはじめ世界の人びとにも知らされませんでした。

ビキニ水爆被災をきき3400万人署名

1954年3月1日、アメリカが太平洋ビキニ環礁でおこなった水爆実験によって日本国民は三度の原水爆による被害を受けました。ビキニ水爆被災事件をきっかけに、広島・長崎の被害、放射能による惨禍を広範な国民が知り、核兵器の廃絶を求める「原水爆禁止署名」が全国でとりくまれ、1年余で当時の有権者の過半数3400万に達しました。



1955年から世界大会

こうした原水爆禁止を求める大きな国民の声を背景に、1955年8月、広島で第1回原水爆禁止世界大会が、翌56年には、長崎で第2回原水爆禁止世界大会が開かれました。以来毎年、世界の人々と連帯して世界大会が開催されてきました。いまや核兵器廃絶は世界の大きな流れに発展しています。

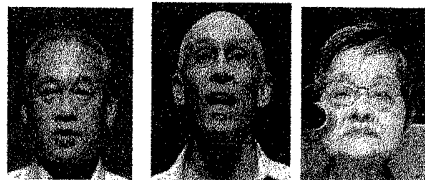
8月2日～9日まで開催

今年は、8月2, 3, 4日に国際会議。4, 5, 6日に広島世界大会。8.9日で長崎世界大会が開かれました。日本内外から5500人が参加しています。



開会式では、佐古正明副実行委員長（写真左）が「戦争の出来る国をめざす安倍政権は、モリ・カケ問題に見られる国家権力の私物化、原発再稼働推進など暴走を続け、核兵器禁止条約に反対している。しかし、先の南北首脳会談や米朝首脳会談に見るように、世界平和は武力ではなく対話で生まれる。大会でしっかり論議し、安倍政権と対決しよう」と呼びかけました。

海外ゲストを代表し、米国の「憂慮する科学者同盟」のグレゴリー・カラキーさん（写真中）があいさつ。日本政府が、アメリカの「核の先制使用」の見直しに抵抗し、核に依存する姿勢を強めていることを指摘し「核の傘では守ることは出来ない。そうした呪縛から解放され、世界



の人々と核廃絶を求める時だ」と訴えました。広島県被爆者団体協議会の桑原千代子さん（写真右）が、8月6日の壮絶な出来事を克明に語りました。

美術館にいつてみませんか？ 長谷川利行展 9月9日まで

「日本のゴッホ」とも呼ばれる長谷川利行展が、藤井達吉現代美術館で9月9日まで開かれています。テレビの「鑑定団」で、2009年1800万円の評価額が出された「カフェ」。その後400万円の評価額の「白い背景の人物」も番組に登場し、発見されたのだそうです。総数144点は1階2階全館を使って見ごたえ十分。絵を描き始めた30歳から亡くなる49歳までの短い人生は、藤井達吉とも年代が重なります。府中市、久留米市、足利市の美術館と福島県立美術館の5カ所のみ企画展です。

この時代に合わせて、喫茶「むぎの家」では電気ブラン（当時東京浅草で飲まれたアルコール）も提供します。8月18日（土）午後1時からワークショップでの絵描き。8月25日（土）午後7時からナイトミュージアムコンサート。9月1日（土）午後2時から講演会。と多彩な企画も行います。



長谷川利行展 HASUKAWA Toshiyuki Retrospective 2018年 7月21日(土)～9月9日(日)

19日行動
8月19日(日)
午前11時～12時
スーパーヤマナカ前

広げよう 安倍9条改憲NO! 3000万署名

参議院愛知選挙区予
すやま初美



参議院議員
井上さとし



弁護士による無料法律相談

◆毎週土曜日午前10時～12時

◆日本共産党知立市事務所

◆隔週火曜日午後6時

◆日本共産党西三河地区委員会事務所

申し込みは碧南市議団へ

日本共産党碧南市議団



山口はるみ 岡本守正 磯貝明彦
☎42-8940 ☎41-5357 ☎48-2718

三度山町2-70-4 笹山町6-29 若松町3-253

お気軽にご意見ご要望を